



www.fao.org

越境性動植物病害虫緊急 予防システム

主な動き

牛疫は、数千年にわたって家畜、農村の生活、食料の安定確保にとって脅威となっている恐ろしい家畜疾病です。FAOは牛疫の根絶に先頭に立って活動しており、2010年には世界に対して根絶宣言を行う予定です。根絶される疾病としては天然痘に次ぐものとなります。

新種の強毒性小麦黒さび病は1999年に東アフリカで発生し、2007年末までにはイランにまで被害が及びました。まん延を阻止できなければ、小麦が主要産物である東アフリカ、近東、中央・南アジアに壊滅的な影響を与えられと考えられます。

2008年に、人的被害や貿易の混乱、経済損失を招いたメラミン混入食品問題をきっかけに起きた大規模な危機は、食の安全が世界的な問題であることを痛感させました。

現在、世界の食用魚の5割近くは養殖生産されています。養殖漁業分野は、他の動物性食品生産分野に比べて急速な伸びを見せています。今や世界の何百万人もの人々が直接・間接的に生活を養殖業に依存しています。

フードチェーンの安全を守る

家畜疾病や植物病害虫は、国境を越え、これまでにない急速な広がりを見せています。世界貿易の拡大によって、安全でない食品が遠隔地市場の消費者に届くリスクが高まっています。昨今の家畜疾病や植物病害虫の発生、食の安全に対する危機は、人間の健康、生活、国家経済、世界市場に影響を与えています。FAOは「フードチェーン危機管理センター (Crisis Management Centre for Food Chain)」を設立し、こうした課題に効果的に対応し、影響国に一貫性のある援助を適時に行うことができるようにしています。

予防および早期警戒

フードチェーン危機管理センターの下で、越境性動植物病害虫緊急予防システム (EMPRES) は以下に対応しています。

- 家畜衛生
- 植物病害虫
- 食の安全
- 水産動物疾病
- 森林の健康

EMPRESの役割は次のとおりです。

- 早期警戒・発見
- 迅速対応
- 監視および情報伝達
- 新しい調査方法、管理体制の研究
- 環境保全型の抑制技術の普及
- 影響国、国内・海外の農業研究所やその他国際機関との密接な連携・協力

植物の病害虫からの保護

EMPRESの植物衛生部門は当初砂漠バッタに注目していました。砂漠バッタは大群で素早く動く移動性の害虫で、行く手にある穀物を食い尽くしていきます。しかし、アジアやアフリカの広い地域では別の種類のバッタが深刻な脅威となっています。現在、FAOは砂漠バッタの抑制に成功したモデルを用い、これらのバッタに立ち向かっています。植物にとってもう1つの越境性の脅威である新種の強毒性小麦黒さび病の監視にも同様のシステムを利用しています。このほか環境保全型の抑制技術の普及も図っています。植物に対するこうした脅威に世界が強く立ち向かうためには国際協力が重要です。



家畜疾病に目を光らせます

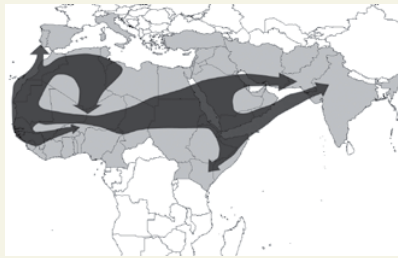
家畜疾病との闘い

世界では、人間の健康も脅かす最も深刻な家畜疾病の予防、封じ込め、抑制、根絶に向けた闘いをしており、EMPRESはその最前線に立っています。EMPRESは新たに発生する疾病を注意深く監視するほか、家畜疾病と闘う力を強化するために活動しています。疾病を発生源で抑え、まん延を防ぐのがEMPRESの戦略です。疾病が発生した際には緊急対策チームを派遣し、獣医その他の技術支援を行います。越境性の家畜疾病はさまざまな要因が絡んでおり、協調的なアプローチが必要です。FAOは世界保健機関 (WHO)、国際獣疫事務局 (OIE) と共同イニシアティブを立ち上げ、鳥インフルエンザ、リフトバレー熱、アフリカ豚コレラ、口蹄病、小反すう動物病、その他の家畜疾病の発生の際にはその効果を発揮しました。

グローバル化と食の安全

食の安全に対する危機は、自然災害や食品・水の汚染が発端となって起きる場合があります。消費者が汚染食品にさらされる危険や、食品由来の疾病の発生につながるおそれがあります。食料供給システムのグローバル化は、食の安全に対する脅威を世界的に増大させています。影響は広範囲にわたり、世界各地の農民、食品加工業者、小売業者、消費者に及ぶことが考えられます。FAOが安全な食品の世界的な供給を維持するためにEMPRESに新たな方法を導入したのもこれが背景にあります。起きるおそれのある、あるいは新たに起きつつある、食の安全に対する脅威を把握することに加え、FAOは科学的見地から助言を行い、食の安全に関するリスクへの対応能力を強化します。実際に危機が発生した場合には、速やかに技術援助を行います。

砂漠バッタの被害国



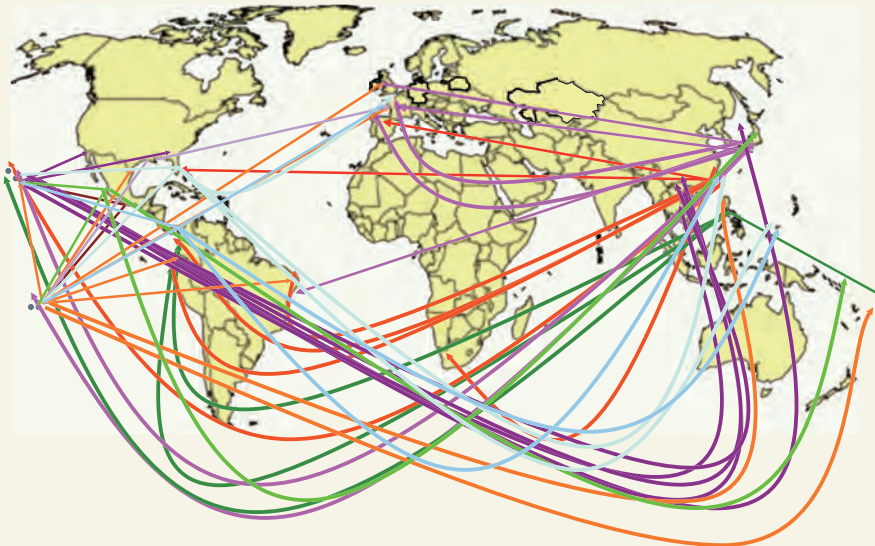
グレーで示されているところが砂漠バッタの被害国です。矢印は繁殖地域間の季節的な移動を表します。一地域で少数の場合は無害ですが、2003～2005年の北西・西アフリカでの異常発生のように、数が増えたと、群れを成して他の地域に移動します。

出所：FAO

水産動物疾病のリスクを減らす

世界では、魚類、軟体動物、甲殻類の養殖業が急速に成長しています。しかし、越境性の水産動物疾病によって、食料保障、栄養改善、経済発展に養殖業が貢献できる可能性が脅かされています。規制を受けない水産動物の世界的な流通が深刻な疾病発生の原因となっています。ひとたび病原体が侵入し、自然環境に定着すると、処理や撲滅は難しくなるため、防止が最も重要な対策となります。FAOでは、病原体の侵入を防ぐ能力を高め、水産動物疾病のリスクを減らすよう努めています。主な対策としては、水産動物の責任ある移動を奨励すること、漁業者で管理と具体策を強化できるよう、情報と手段を漁民に提供することがあります。

活きエビ取引の広がり



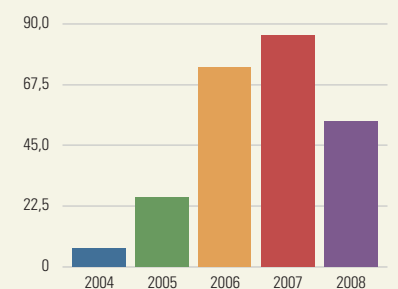
活きエビ取引はカラーの線で表されるように拡大しています。同時に、大きな経済損失を招く白点病などの越境性の水産動物疾病がまん延するリスクも広がっています。

出所：アリゾナ大学（2007年）

森林の健康を守る

森林は、他の生態系と同様、病虫害や疾病の危険にさらされています。森林が病に冒されると、木が枯れ、物やサービスを提供する森の能力が衰えてしまいます。森林の保護に関して最近特に問題となっているのが、世界貿易と気候変動です。開発途上国が森林の病虫害や疾病に関する情報を把握、収集、発信する能力を持っていることはまれです。そこで国際協力が必要となります。FAOは森林の病虫害・疾病、侵入生物、病虫害の発生、抑制対策に関するデータや情報を収集し、支援します。このほかにも、各国が病虫害の発生に対応し、長期的な防止・森林保護計画を立てられるようサポートします。

FAOの鳥インフルエンザ対策費
(百万米ドル)



出所：FAO



国際連合食糧農業機関 (FAO)
Viale delle Terme di Caracalla
00153 Rome, Italy

電話: (+39) 06 57051
ファクス: (+39) 06 57053152
Eメール: FAO-HQ@fao.org

報道機関問い合わせ先:
電話: (+39) 06 57053625
ファクス: (+39) 06 57053729